



中部メディカル新聞 第14号

利用者さま、ご家族さまへ情報をお届けします



新しい福祉用具の使い方 第四回多職種連携勉強会

平成 26 年 6 月 19 日 (木) 13 : 30~15 : 00 に第四回多職種連携勉強会を開催いたしました

トップバッターは東山産業株式会社の友田日出美さん
らくらく移乗車椅子「乗助さん」

- ◎乗ったまま移動ができ、乗り降りがとてもかんたん
- ◎移乗機能がついても一般的な車いすと同等の大きさ
- ◎少しお尻が上がる利用者には介助者にとっても大変に楽です



2 番手はリンクスの村瀬寛哉さん

写真は「ペンギンサポート」

- ◎体位変換がしやすく、側臥位の保持も可能
- ◎おむつ交換作業などが楽に、より安全に行えます
- ◎全介助で側臥位が保持できない利用者様にはオムツ交換をとても楽にします



最後はアサヒサンクリーンの安井太一さん

話題の「マッスルスーツ」

- ◎筋力を増力するように働く着用型ロボットです
- ◎ゆっくりとした移動介助”を行うことができます
- 訪問入浴では無理な体勢での介助が要求され離職防止にもなるそうです



勉強会にご協力頂いた方や参加者の皆様に感謝致します！

(熊澤・理学療法士)



中部メディカル新聞は皆さまの情報をお待ちしております



中部メディカルの看護師便り

①糖尿病とは？

インスリン作用不足による慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患です。I 型糖尿病では、インスリンを合成・分泌する膵ランゲルハンス島β細胞の破壊・消失がインスリン作用不足の主要な原因です。2 型糖尿病は、インスリン分泌低下やインスリン抵抗性をきたす素因を含む複数の遺伝子要因に、過食（とくに高脂肪食）、運動不足、肥満、ストレスなどの環境因子および加齢が加わり発症します

②インスリン作用とは？

インスリンが体の組織で、代謝調整能を発揮することを言います。適切なインスリン供給と組織のインスリン必要度のバランスが取れていれば、血糖を含む代謝全体が正常に保たれます。インスリンの分泌不足、またはインスリン抵抗性増大はインスリン作用不足をきたし、血糖は上昇します

(河合・管理者看護師)



私の 18 のピリフ 2 番「感謝」

毎日業務の中で多くの方とかかわりお仕事をさせて頂いておりますが、相手にとってほんの小さな親切だとしても、お心配りに対して敬意や感謝の気持ちを持つことはとても大切なことです。お世話になった人へ次回お会いした時に忘れず感謝を伝えられるようにスタッフ一同気をつけています

(熊澤真・専務)



中部メディカル 訪問看護ステーションの理念

- こころを大切に** (ご本人とご家族のこころを大切にします)
- 連携を大切に** (地域のケアチームと親密で良好な関係を築いていきます)
- スピードを大切に** (出来る限り早く対応して信頼されるステーションを目指します)





看護師雑記 みちくさ



頭の体操 パート9

☆ 仲間はずれはどれ？ 答えをひとつ選んでください！

- ① 森 林 火 月 木
- ② 大 根 りんご バナナ しいたけ 玉ねぎ
- ③ 一 二 乙 口 の
- ④ 牛 鳥 山羊 かに さそり 羊

先月号こたえ 問1 数字 (いち、はち、ご、さん、ろく)

問2 文字 (袋文字、顔文字、囲み文字、絵文字)

早く答えが知りたい方はスタッフへお尋ね下さいね！

(加藤・看護師)

ヒント①形②食べ方③書き方④占い



スタッフのほっと一息

今回は会社から車で10分程の「ごはんや 金沢」さんへ行ってきました。各種定食、丼メニューが豊富で、お値段は1000円前後からですが、金沢直送の新鮮な魚を食べられる人気のお店です。メイン・小鉢2種類・ごはん・味噌汁・漬物の定食。私の選んだのは左の赤魚の粕漬定食です。家ではなかなか上手く焼けないので、皮がパリッと香ばしく身もふっくらしていてとても美味しかったです！右は刺身盛り合わせです。小鉢は15種類以上の中から2つ選択できます。魚だけでなく豚ロースステーキもおすすめです。魚も肉も大好きな私はメニューと睨めっこしてしまいます。ぜひ皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。そして何を召し上がられたか教えて下さい！

(三宅・看護師)



「認知症」とは？



最近、新聞記事やニュース報道で流れている事件、事故で認知症がよく話題になります。電車に飛び込み裁判沙汰になったり、行方不明になっていた人が老人施設に入所していたり、そんなニュースが流れて来ます

中部メディカル訪問看護ステーションの利用者様の中でも認知症の方がみえます。認知症に気づくきっかけは、性格の変化。今までとは違う反応があり、対応優しい人が些細な話題で急に怒り出す。笑わない人が冗談を言う。手を挙げたことがない人が人を叩いたりする。朗らかに変化したり、穏やかになったりする人もいます。ネガティブの変化には家族には大きな負担がかかります。こんな場合は、早目の医療機関の受診が必要です

在宅での対応で間違えやすいのは、否定してしまうことです。否定してしまうと、本人はますます戸惑い、イライラを募らせます。今までは普通に出来た意見交換ですら、口論に発展したり、強い不快感を示したりすることがあります。そのような場合は、一旦、その話題から離れる癖をつけましょう。明るい変化の場合は、一緒にたくさん笑うことが何よりの元気の元になります。体が健康であれば、ぜひ外食やお散歩、外の世界をたっぷり一緒に楽しんで良い思い出を重ねましょう。楽しい記憶が増えることもまた、元気を長持ちさせる秘訣といえます。

私達の訪問看護ステーションのスタッフも利用者様のお宅に訪問し、ご本人の不安を解消し、ご家族の介護負担を軽減するために頑張っています。高齢になれば単なる物忘れは増えます。必要以上に不安がることはありませんので、何でも遠慮せずにご相談下さい (大野・看護師)



訪問看護、訪問リハビリについてのご質問ご相談のお電話、メールをお待ちしております。ホームページからもお問い合わせできます



事業所番号 NO.2361390186

中部メディカル 訪問看護ステーション



〒463-0048 名古屋市守山区小幡南三丁目 17-31 B-3

TEL 052-792-9802 FAX 052-792-9803

携帯 080-5298-9513

E-mail chubucare@arion.ocn.ne.jp

HP <http://www.chubu-med.com>

